

## イグスの技術を搭載したロボットが ロボカップ2017名古屋世界大会で2冠

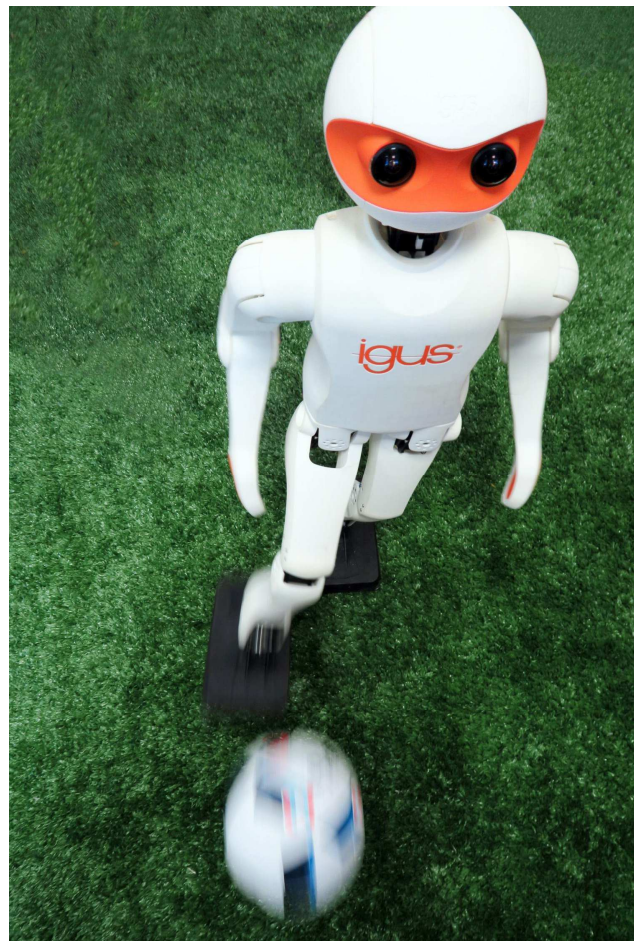
2017年7月27日～30日、ロボカップ2017世界大会が名古屋で開催され、イグス GmbH（ドイツ・ケルン市）が共同開発するチーム「NimbRo」が「ティーンサイズ」と「アダルトサイズ」の2部門で優勝しました。

ロボカップはロボット工学の国際大会であり、新規開発の挑戦や知識交換の場として20年前に始まりました。今回は、4日間の大会期間中、多種多様なロボットが17種目で競い合いました。その種目範囲はフットボールからケア/サービス、物流領域に及びます。ヒューマノイドサッカーロボット（人型ロボット）のティーンサイズリーグでは、イグスが協力したボンの「NimbRo」チームが優勝しました。一方、標準プラットフォームリーグでも、イグスをスポンサーとする「B-Human」チームが前回に続き優勝しました。

### オープンプラットフォームのイグスヒューマノイドロボット

「NimbRo」チームは、ボン大学の自律知能システム作業グループに属するスタッフや学生で構成されています。イグス GmbH と共同開発したオープンプラットフォームのヒューマノイドロボットは、PA12（ポリアミド）材質で3Dプリントされた高さ92cmのロボットです。

今年はロボットの知覚性能や動作安定性を改善し、さらにプレーヤーとなるロボット相互間のコーディネーションの拡大に注力した改良を行った、と大学作業チームの責任者であるスヴェン・ベーンケ博士は語っています。その結果、無失点で優勝を果たしました。



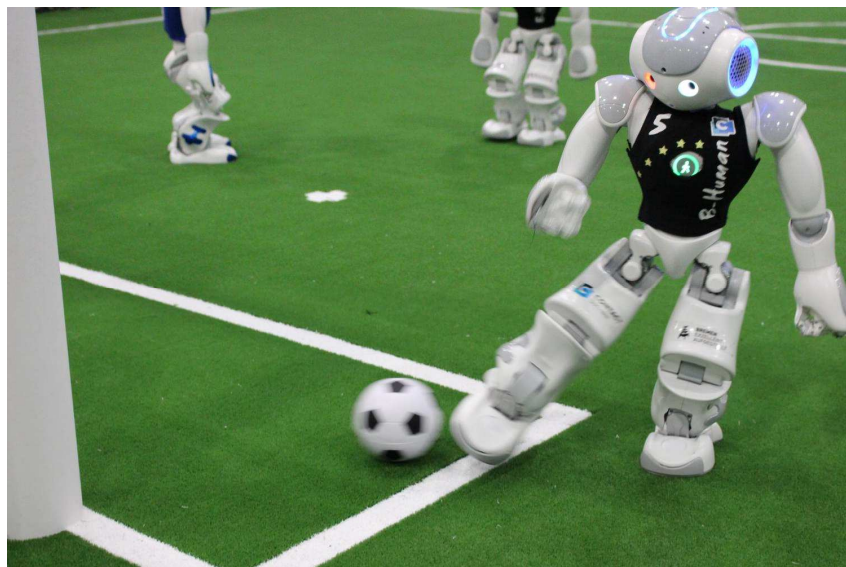
写真右：「NimbRo」チームのロボット

## ニュースリリース

2017年9月15日

### B-Humanチームが標準プラットフォームリーグで連勝

イグスがスポンサーするブレメン大学の「B-Human」チームは、昨年に続き標準プラットフォームリーグで連覇を達成しました。このリーグでは、どのチームもNAOコミュニケーションロボット5機で戦います。「B-Human」のチームリーダー、ティム・ラウエ博士によると、「新たに採用された人工芝では我チームのプレイヤーはボールを遠くまでプレーできません。ライプチヒ大学のロボットがゴールチャンスを作り出す一方で、我がチームのプレイヤーは相手チームのゴール付近での待ち時間が多くありました。しかし、堅い守りと2得点のおかげで、2:1で勝利できました。」とコメントしています。



写真上：「B-Human」チームのロボット

以上

## イグス株式会社

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-2-1 アルカセントラル 15 階

Tel:03 (5819) 2030 (代表)

<http://www.igus.co.jp>

### <製品についてのお問い合わせ>

Tel:03(5819)2500

Fax:03 (5819) 2055

E-mail:info@igus.co.jp

### <プレスリリースについてのお問い合わせ>

Tel:03(5819)2057

Fax:03 (5819) 2055

E-mail: charada@igus.co.jp

以下の用語、"igus", "CFRIP", "chainflex", "conprotect", "CTD", "dryspin", "dry-tech", "easy chain", "e-chain", "e-chain system", "e-ketten", "e-kettensysteme", "energy chain", "energy chain systems", "flizz", "manus", "pikchain", "readychain", "readycable", "savfe", "speedigus", "triflex", "twisterchain", "drylin", "iglidur", "igubal", "xiros", "xirodur", "vector"は、igus® GmbHの登録商標でありドイツ連邦共和国とその他の国によって法的に保護されています。